

福島県立博物館の紹介

福島県立博物館 主任学芸員 相田 優

福島県立博物館は、当県の歴史と文化に関する資料の研究と展示を行う施設として、1986（昭和61）年10月にオープンした。当館は基本的には人文系博物館としての性格が強く、学芸分野は考古・民俗・歴史・美術史・自然・保存科学の各分野で構成されている。学芸スタッフは総数20名である。おもな活動の内容は調査・研究関係、資料の収集・保存関係、展示関係、普及活動に区分されるが、当館では展示関係、特に企画展（特別展）にかけるウェイトが同系他館よりも大きい傾向がある。

上のおり学芸分野に自然部門があるが、当館には動・植物、環境などを扱うセクションがなく、実際は地質学のみである。スタッフは現在3名、各員の専攻は中生代放散虫、新生代浮遊性有孔虫、第四紀植物化石である。

さて、福島県内には古生代から第四紀まで各時代の地質系統が分布し、浜通り地域を中心に著名な化石の産出も多い。また第四紀陸上火山も数多く分布するなど、全国的にも地質の資料に恵まれた土地柄の一つである。当館の展示では、これらの豊富な地質資料を紹介するため、常設展示では地史の流れに沿って展示を構成している。目玉となる資料として、謎の絶滅ほ乳類として名高いパレオパラドクシア化石（本県梁川町の新第三系より産出）がある。この標本は両前肢を除いたほぼ全身の骨格が揃っており、特に頭骨の保存状態がよい。全身が揃った標本としては世界で4本目の発見例である。また、白亜紀クビナガリュウの全身骨格化としては本邦唯一とされるフタバズキリュウ（いわき市より産出）の復

元レプリカの展示も行っている。

一方、大型資料の展示だけにとらわれないよう、阿武隈変成岩類、ペグマタイト鉱物、新第三紀の貝類化石・植物化石等、県内の地質の特徴が見えるような展示を心がけているが、今のところ豊富な資料内容に対して展示室が狭く、十分な紹介を果たせずにいるのが現状である。

企画展は学芸各分野ごとのテーマに沿って年4回、それぞれ約2ヵ月の会期で開催している。地質分野では常設展の不足を補う企画となるよう心がけている。これまでに扱った内容は植物化石展、鉱物展、浜通り地方の地史、鉱山展、恐竜の足跡展、会津地方の地史、貝化石展の7つである。'96年夏には自然災害をテーマとした企画展を予定している。当館では企画展示室の面積が700㎡以上とたいへん広いため、各テーマを深く掘り下げた見応えのある展示が提供できるものと考えている。

展示活動は博物館が担う主要な役割の一つだが、当館では展示の基礎となる研究成果の蓄積が博物館活動の基本であるとの認識から、調査・研究活動にも力を入れている。地質ではスタッフの専攻の関係から微化石層序の研究が多く、これまでに浜通りの双葉・広野地域の多賀層群、常磐炭田地域の新第三系についての調査報告書を刊行してきた。現在は会津地域の新第三系についての報告を準備中である。また、第四紀を専攻するスタッフが加わったため、ボーリング試料に基づく後期更新世の古環境解析の研究に着手している。

普及活動においては、講演会、実技講座、見学会などさまざまなかたちの博物館講座

を行っているが、地質分野ではやはりフィールドに出て化石採集をする野外講座の人気が高い。特に小・中学生の熱中ぶりには、見ている我々が感激させられる。近ごろ言われる理科系離れ、野外実務に対する3Kなどの悪しき認識が別世界のことのようにさえ感じられる。本来、野外科学はモノへの興味と楽しみの上に成り立っている。その解放的な楽しみを伝え、敬遠されがちな“理科系”の中にある“あそび心”を復活させるためにも、博物館の普及活動の意義を改めて認識しているところである。

読者の皆様には、特に企画展のおりには御来館の上親しく御観覧いただきたく、ご案内申し上げます。また、博物館講座は参加定員以外の制限を設けず、どなたにもおいでいただけるよう考えております。ぜひ、機会を見つけて御参加くださいますよう、お待ちしております。

所在地：〒965 会津若松市城東町1-25
 電話：0242-28-6000
 F A X：0242-28-5986
 開館時間：9:30AM～5:00PM

最終入館は4:30PMまで
 休館日：毎週月曜日（月曜日が祝祭日の時は開館、その翌日休館）
 祝祭日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）

年末年始（12月28日～1月4日）
 その他臨時休館（館内くん蒸など）

観覧料：

	個人	団体
一般	250 (500)	200 (400)
高校生	150 (300)	120 (220)
小・中学生	100 (200)	80 (130)

（ ）内は企画展開催時の料金、団体は20名以上

企画展案内

平成8年夏には自然分野担当で以下の企画を開催します。

名称：地震・火山・津波

—自然災害を科学する—

会期：平成8年7月20日（土）～

9月16日（日）

内容：地震、津波、火山災害、地滑り・土砂崩れなどの自然現象を、人間の生活の側面から災害としてとらえ、そのメカニズム、予知、防災などの内容を紹介する。

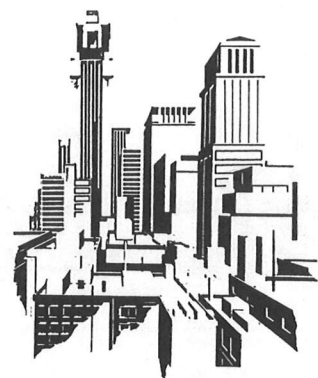
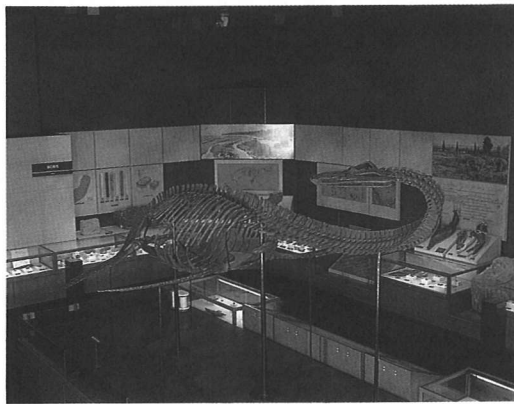


写真1 県立博物館正面

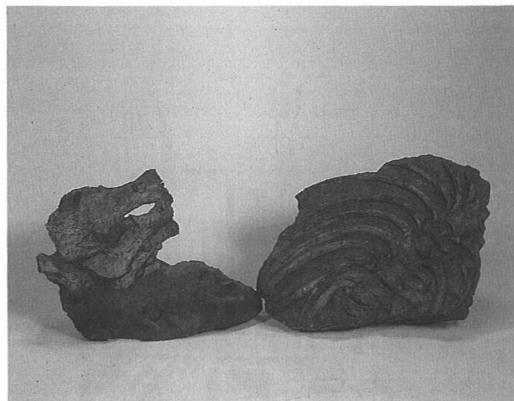


写真2 フタバスズキリュウ全身骨格（複製）



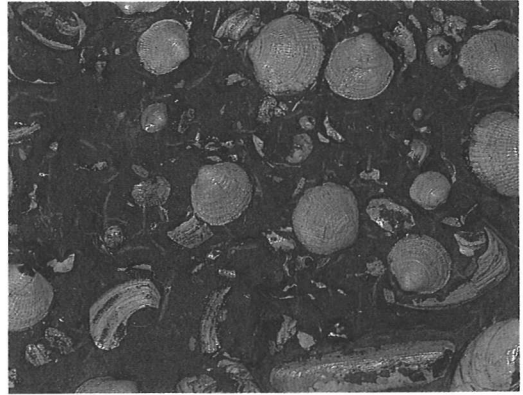
Elasmosauridae gen. et sp. indet.
白亜紀後期 玉山層 いわき市大久町入間沢
恐竜時代の海に棲んだ絶滅ハチュウ類。昭和43年、鈴木直氏により発見された。

写真3 パレオパラドキシア
（梁川標本・複製）



Paleoparadoxia sp.
新第三紀中新世 梁川層 梁川町広瀬川河床
約1,500万年前の地層から発見された絶滅は乳類。デスマスチルスと共に話題の多い古生物である。写真は産状の複製。

写真4 貝化石密集砂岩



古第三紀漸新世 石城層 いわき市平赤井
いわき市は、東北日本では数少ない古第三系の分布域でもある。かつての常磐炭田の炭層もこの岩城層中に胚胎している。

写真5 企画展の展示風景



1994年冬に行った企画展「会津の自然史」の際の、新第三紀岩石標本の展示。

写真6 野外講座の一コマ



1995年5月、棚倉町寺山の採石場で行った化石探しの講座での実習風景。